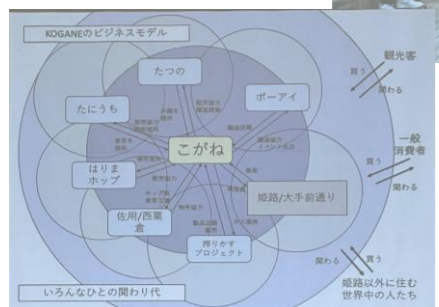
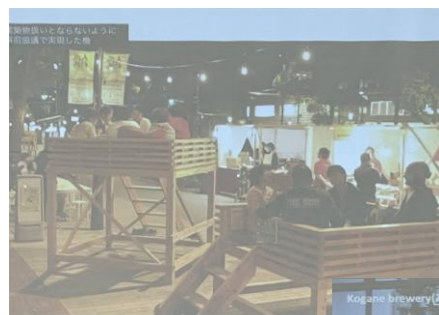


ゲストによる話題提供

姫路市で「ビール系プレイスメイカー」として活躍する梶原氏から、姫路での実践を通じて「まちと関わること」について話題提供

迷ったときは「自分たちらしいか？面白いかな？」に立ち返る、やるよ！と言うことでまわりが応援してくれる、言い続けることが実現に繋がる一歩であることなど、船場ならではのヒントをいただいた



梶原伸介氏

コガネブリュワリー株式会社代表取締役
合同会社hyphen代表社員
1976年兵庫県神戸市生まれ。ビール系プレイスメイカー、一級建築士。コワーキングスペース兼設計事務所「mocco」を2013年に立ち上げ、地域の人と関わりながら空き家リノベーションに取り組む。一方で、姫路市のメインストリートである大手前通りを歩いて楽しい空間にするプロジェクトに2019年から参画し、様々な社会実験を3年間に渡って企画。その後、コンサルとしての立場から脱却して自らクラフトビール醸造所兼飲食店を立ち上げ、地元プレーヤーとして参入。姫路の誇りに思ってもらえるようなビールを生み出すべく日々精進している。

船場フォーラム 2024 Part2

2024.10.5 (sat) 14:00-17:00



REPORT

参加者からの声（アンケートより）

- 船場が聖地になる取組みを、という志を忘れてはいけないんだなと思いました（40代）
- 初めての参加でしたが、皆さんの前向きな意見や空気が楽しかったです（40代）
- まずやってみる、応援してみるノリが船場らしい。プロジェクトが増えて会員の輪を広げてほしい（40代）
- いろいろなお話を聞けてよかったです。とても刺激になりました（20代）
- ぜひお金の話を本気でする会もやってほしいです（20代）
- 発表4組の活動進捗を知りたいので、船場倶楽部からメール配信希望します（50代）
- 若い人たちが格段に増えてうれしい（70代以上）
- 前回に続き2回目の参加でしたが劇的に変化していて、さすが事務局が若返ると違うなーと感心しました！おつかれさまでした！（40代）
- 全体の構成がおもしろかったです。他都市でもできたらなあと思いました（20代）
- このようにワークショップ形式のほうがただ聞くだけより自分の意見を発現できてよい（60代）

日時	2024年10月5日（土）14:00～17:00 [交流会]17:30～19:00
会場	綿業会館 大会場（本館7階） [交流会]アプリーテ
開催趣旨	CCD船場実現に向けて、オープンエア空間をコモンプレイス（共創空間）へと変える社会実験や、新たなチャレンジの支援、出会い交流の場となるサロン開催等に取り組む中、船場フォーラムを“チャレンジしたいヒトと出逢い、応援する場”として位置づけ開催する
プログラム	0. 開会挨拶・趣旨説明 1. ブーストーク ゲストによる話題提供と、船場で活動をスタートした4組によるブーストーク [ゲスト] 梶原伸介（コガネブリュワリー株式会社代表取締役、合同会社hyphen代表社員） [ブース登壇] 小林桃唯（コンセントミュージック）/実藤和典（ハミガキ団） 谷 怜奈（Talkin' About YOUTH(TAY)）/依田宗長（まちなか焚き火プロジェクト） 2. 船場大会議 ゲストとともに会場全体でディスカッション [登壇者]橋爪紳也（大阪公立大学 特別教授、船場倶楽部特別顧問、船場まちづくり検討会座長） 梶原伸介（コガネブリュワリー株式会社代表取締役、合同会社hyphen代表社員） [進行]安田康佑（株式会社STUDIO_C代表、チームcobon）
参加人数	フォーラム 64名 交流会 39名

ブーストークキング

①ブース出展者によるアイデア発表

船場で活動をスタートした新進のグループ・個人4組のブース出展者が各2分で自己紹介を実施
参加者は自己紹介を参考に、この後トークに参加したいブースを2つ選択



②ブーストークキング開催

4つのブースに分かれてのブーストークキングを実施（25分×2回）
ブース登壇者が活動概要、船場で実現したいこと、現在の課題等を投げかけ、参加者と話し合った



A: 小林桃唯/コンセントミュージック

「音楽で人と人をつなぐ」を目指し、コンセントカフェを会場に路上アーティストを応援-活動の場となるライブ実施

《主な意見》演奏者と観客の交流、参加型プログラムを実施/アマチュア応援というコンセプトのファンをつくる/地域のイベント等に向向いて知ってもらうきっかけづくりを



B: 実藤和典/ハミガキ団

歯の健康、歯磨きの大切さを普及啓発するため、歯磨きを気軽に楽しめる環境と文化を創る参加型プロジェクトを実施

《主な意見》会社に歯磨きスペースを常備する/歯磨き休憩時間をつくる/歯磨きしながら考え事をするというアイデアが生まれることもある/継続するための資金調達が課題



C: 谷 怜奈・門田友葵/Talkin' About YOUTH

U35世代が集まり、様々な社会課題や新しい価値づくりに取り組む方をゲストに招き、話を聞いたり意見交換する場を開催

《主な意見》互いにやりたいことを知り合うために、お掃除や防災キャンプなど、コラボして実施し共有・発信していく/船場に拠点をつくり「TAY Light」ができるとうい



D: 依田宗長/ まちなか焚き火プロジェクト

『都心で火を囲む非日常体験を提供する』ことで、都会における人々が交流する機会と場所を演出する活動を実施

《主な意見》実施するためのルールや制限をわかりやすく説明できるように/あえて暑い夏の焚き火もいい/焚き火を囲んで生まれたアイデアを次どこへ繋ぐかが課題



③船場大会議で各ブースの議論を共有

「それぞれタネとして面白い。なぜそれをする必要があるのか、その解決策の精度を高めていくとより良くなっていく」（梶原氏）

「20年前、船場のまちづくりもみんなのやりたいから始まった。次々と活動が生まれ続けているのはとてもよい。様々な活動同士が出会い化学反応が起こる、それが“船場らしさ”かもしれない。5年、10年先の野望を持ったうえで、“船場ならではの”に育てていってもらえたら。船場がある分野の聖地になるとよい」（橋爪特別顧問）

